

〔巻頭言〕

臨床心理学科開設10周年に寄せて

札幌学院大学人文学部臨床心理学科長 森 直 久

2001年に設置された臨床心理学科も、いよいよ一つの区切りを迎えようとしています。10年前、短いとは言えない準備期間を経て、本学科はスタートしました。マスコミを賑わせた凶悪な少年犯罪や、PTSD（外傷後ストレス障害）という症状が広く知られるようになった阪神大震災が起こって間もなくであり、またスクールカウンセラーの公立学校への派遣を文部科学省が試み始めた時期でもありました。心の問題に社会が大きな関心を寄せていました。このような社会的要請を受け、心の専門家となり得る人材の育成を目指して、本学科は開設されました。臨床心理学を名称に冠した学科は、全国で2番目ではなかったかと記憶しています。

学科設置からさかのぼること一年、2000年4月に大学院臨床心理学研究科が設置されました。この機関での臨床心理士養成に結びつく基礎的教育を提供することが、本学科の設置趣旨の一つでした。大学院教育との連携の他には、先に述べた時代背景を鑑みての、社会的必要性への呼応があります。医療、教育、産業、司法、福祉などの領域で働く専門家に、高度な力量を保證する臨床心理士の資格が求められるようになりました。また、地域からの要請も設置趣旨の一つでした。関東、関西などの大都市圏に比べ、当時北海道における臨床心理士の数は圧倒的に不足しており、さらに道内でも心理士の分布は石狩支庁に大きく偏っていました。このような道内外格差の解消に寄与しようとする強い意思が、学科の設置へとつながったのです。

専任教員の9割近くが臨床心理士という充実した質と量のスタッフを配備し、基礎から応用までの筋道のはっきりした、かつ特定の心理臨床分野に偏らない、バランスの取れたカリキュラムを構成しました。科目群は「心理臨床の基礎」「心理臨床の応用」「心理臨床の展開」「心理臨床の周辺領域」に区分され、これらが同心円的に構成されました。心をとらえる基本的知識を提供する必修科目として「心理臨床の基礎」科目群があり、その応用領域として「心理臨床の応用」科目群が配置されました。これらの科目との相互補完する「心理臨床の展開」科目群は、心理臨床に必要な感受性や技術、倫理などを身をもって学ぶ実習科目です。相談機関であり教育機関である心理臨床センターと、1年先だって開設された第1種指定大学院臨床心理学研究科との協体制という、恵まれた教育環境を活かし、実践的色彩が強く打ち出したカリキュラムを目指したのです。学問的研鑽の重要性を認識しつつ、他者援助を座学にしないという意志と、援助者となるためには自らを見つめることのできる強い心身を育むべきとの信念が、本学科にあったためです。また心理臨床に間接的に関わる「心理臨床の周辺領域」科目群として、教育心理学、認知心理学、社会心理学などが開講されました。以上のカリキュラムの実施は専任教員の質量に依るところと、そして非常勤講師のご協力があってなし得たことです。ご協力下さった先生がた、どうもありがとうございました。

2010年度に3回目となる大規模なカリキュラム改訂を行ないました。実習重視の姿勢は維持しながら、科目の統廃合、教員の資質を活かした新科目設定を行ないました。またこれまで選択であった3年次の演習の必修化、1年次の基礎ゼミナールを大学への適応を重視した内容にするなど、学生の修学状況を把握、支援する体制を強化しました。もう一つの特徴は、より深い学びを希望する学生のために、少人数による3年次演習を設けたことです。さらに、試験的ですが1年次、2年次においても、このような学びの機会を提供する少人数ゼミナールを開講し、最適な学習環境の整備を継続しています。その他、2006年度に精

神保健福祉士受験資格取得課程が設置され、2010年3月に最初の国家資格合格者11名を送り出すことができました。

時代とともに、臨床心理学科に期待されることは変化して行くでしょう。上記のカリキュラム改革や資格課程の設置などの、時代への即応とともに、他者援助において変えてはいけないものを大切にして、臨床心理学科教員は自ら範となり学生に伝えて行きたいと思っています。この内容を2009年、学科のアドミッションポリシーとして掲げました。すなわち次の5点です。①他者を支援するために必要な、人間尊重の態度をもつ人。②人との関わりを通して、自らの潜在的な資質を成長させる意欲をもつ人。③先入観にとらわれず、柔軟な視点からものごとを考える姿勢をもつ人。④臨床心理学とその関連領域（福祉、医療、教育など）における実践体験を、それぞれの学問的知見と統合して理解しようという意思をもつ人。⑤将来、臨床心理学の知見を活かして、地域に住む人々のさまざまな心の問題を支援したいという意思をもつ人。これらは学生への期待であるとともに、我々スタッフが常に確認すべき立ち位置でもあります。

この10年間には何人かの先生がたが本学科を「卒業」されましたが、開設当初の意志と信念は、その都度加わった新しい仲間とともに護り続けられてきたと思います。これからのスタッフ達もまた臨床心理学科のよき伝統を形成、維持すべく精進してくれるものと、固く信じています。